

こんな先生
いるよ!

瀬尾 隆 先生

理学部第一部
応用数学科 教授

「研究漬けの人生にも
それぞれのライフ
スタイルがある」

さまざまな要素を多次元として扱う

応用数学の統計科学で、先生はどんな分野を扱っているのでしょうか。

統計科学の中の多変量解析というものを取り扱っています。多変量とは言い換えれば多次元という意味で、例えば、国語、数学、理科、社会、外国語の5教科の点数を5次元のデータベクトルがあるときみなします。生徒が100人なら、5次元データが100個あるという考え方です。

現在はコンピュータが発達し、たくさんの擬似的なデータを作れるようになっていて（モンテカルロ・シミュレーションといいます）、その結果に近い近似値を理論的に求めて、その近似精度をより高めることを試みています。

テーマとしては、「欠損値データにおける統計的手法」や、「成長曲線モデル」、「多変量正規性の検定」などを扱っています。

研究漬けの研究者生活

若い頃は数学のことばかり考えていたようですが、どんな生活だったのですか。

個人的意見ですが、研究者には研究にしか興味がない人もいます。私もその一人で、電車の中でも研究のことを考えていました。野田キャンパス勤務時代には特にそういうことが多かったと思います。数学には実験がないので、いつでもどこでも思考できるため、どこか自由な人が多くなるように思います。私もそんな一人でした。

膨大な計算は、考え始めると一気にやら

ないと効率が上がリません。何十ページもの数式計算を考えるわけですから、途中で切れてしまうと後戻りが大変なのです。学校でも考え続けるのですが、お風呂やトイレでも考えることがあります。

私の妻も大学教員（研究者）で、私より忙しいようです。子育て時代には私の方が自宅や保育園に近く、保育園や学校からの連絡に対応することが多かったのではないかと思います。

妻のほうは我が家にたくさん資料があり大型の複合プリンタなども置いているので、自宅は彼女の研究室化しているようなところもあります。

私は反対に、自宅に近いこともあり、研究に関するほとんどのものを研究室に置いているので、家には私専用の机がありません。それでも必要がある時はダイニングテーブルやリビングでやっているという感じですね。

*

まだ若い頃の話ですが、理科大の恩師で、アメリカの大学教授でもあった塩谷實先生の70歳誕生をお祝いする国際会議がハワイで行われました。それがきっかけでカナダのトロント大学の教授のところに1年間、在外研究員として留学することになりました。そんなこともあって、ハワイはとても好きで、以前は家族で毎年のように行っていました。趣味のない私ですが、旅行、特に温泉が好きで、家族とは色々なところに出かけました。それでも海外に行くならやはりハワイがいいですね。

太田正人（シエイクリエイト）

【写真左】塩谷先生を囲むハワイでの国際会議（中央・塩谷先生の左後ろが瀬尾先生）

【写真中】2023年度の研究室ゼミ合宿 【写真右】在外研究以来、25年以上の付き合いのあるSrivastava トロント大学名誉教授と（Srivastava 教授の自宅にて）

